2025年度FD Session

未来社会の担い手となる学生の教育に、大学が主体となって取り組む

―「リベラル・アーツ」再考―

日時　2025年7月30日(水)
15:00～16:00

開催　オンライン形式(zoom)

対象　本学教職員

▶ 講師



深堀　聰子 氏

九州大学 未来人材育成機構 教授
国立教育政策研究所 フェロー

※URL等はマナビー【FD関連info(2025年度)】及び メールにてお知らせいたします。

主催:同志社女子大学　教務部　教育開発支援センター

【講演概要】

大学は、中世以来、学術の継承（教育）、発展（研究）、普及（社会貢献）の役割を担うことで、人類社会の発展に寄与し、段階的・爆発的拡大を遂げてきました。ところが、高等教育「大衆化」の帰結として、20世紀末には、教育・研究・社会貢献の内容とその成果、管理運営の在り方等をめぐって、社会から厳しく説明責任を問われるようになりました。とりわけ、人口減少社会日本においては、高等教育の「質の向上」が「規模の適正化」とセットで要請され、待ったなしの「変革」を迫られています。

一方で、大学は決して、旧態依然としてきたわけではありません。「教育」においては、大多数の教員が、在籍する学生の現在と未来のニーズに照らして真に必要だと考える取組に、保有する教育資源の制約のなかで注力してきたはずです。そうであるのならば、取組の意義が社会に正しく理解されるように分かりやすく説明したうえで、必要に応じて有効だと期待される改善策に取り組んでこそ、意味のある「変革」となるはずです。

例えば、同志社女子大学の教育理念の礎となる「リベラル・アーツ」は、学生に何を知り、理解し、行えるようになることを目指すものであり、いかなる組織的取組として計画・実践されているのでしょうか。それは高等教育政策が要請する「未来社会を担う人材に必要な資質・能力の育成（文理横断・融合教育等）」をいかに満たし、超えうるものなのでしょうか。いかなる改善方策の選択肢がありうるのでしょうか。

このFD Sessionでは、「リベラル・アーツ」を切り口に、未来社会の担い手となる学生の教育に、大学が主体となって、社会の理解と協力を得ながら取り組むことについて、皆様と議論し、検討を深めたいと思います。

liberal arts

artēs līberālēs

講師プロフィール

1967年生まれ。京都大学教育学部卒業、京都大学大学院教育学研究科教育学専攻博士後期課程退学、コロンビア大学大学院教育学研究科博士課程修了。

東京大学社会科学研究所助手、京都女子大学短期大学部講師、同准教授、国立教育政策研究所総括研究官、同高等教育研究部長を経て、九州大学未来人材育成機構教授 兼 国立教育政策研究所フェロー。

専門は比較教育学、教育社会学、高等教育論。

九州大学では、未来人材育成機構 評価・改善支援部門長として、九州大学の教学マネジメント・システムの構築・運営・発展に取り組むと共に、専門的人材養成モジュールのカリキュラム設計担当者養成プログラムの代表者として、学内外の教職員を対象とするFD・SD等に関する活動を実施している。

主要著書：
『アウトカムに基づく大学教育の質保証 -チューニングとアセスメントにみる世界の動向』（東信堂）

受賞：
日本工学教育協会2024年度工学教育賞（業績部門）
「エンジニアのように考える力を測定する -Tuningテスト問題 バンクの教学マネジメントへの活用」